



2025年度 愛・地球博記念公園での 自動運転導入実証事業 業務実施成果報告書

2026年3月
BOLDLY株式会社

BOLDLY
UPDATE MOBILITY

- 1. 事業の概要**
- 2. 運行結果**
- 3. ユーザーアンケート結果**
- 4. 検証結果と次年度以降の展望**

1. 事業の概要

事業概要

- ・本事業においては、「園内バス西ルートにおいて、将来的に運転席無人（レベル4相当）で走行を予定している自動運転園内バスの実装」をコンセプトに、以下概要で業務を実施した。

項目	内容
実施内容	中型EVバスを用いた園内バス西ルートにおけるLv2自動運転の実施と将来の運転席無人に向けた検証
運行期間	2026年1月28日（水）～3月31日（火） ※準備/調律運行：25年12月2日～26年1月26日（計31日間） 関係者試乗：26年1月27日
運行区間	園内バス西ルート（約5.1km） ※全区間自動
使用車両	WeRide「Robobus」
利用者	一般来園者
その他	<ul style="list-style-type: none">・実運行を前提とした検証・歩車混在環境での成立性検証・運転席無人移行に向けた検証



※園内マップを加工して利用

実施体制

- ・本事業は、BOLDLY株式会社を事業統括とする4社の企業グループで事業を推進した。

企業名	主な役割
BOLDLY（株）	事業統括、車両調達、自動運転システム導入支援、オペレーター教育
名鉄バス（株）	交通事業者としての運行支援
（株）ワークシステムサービス	車両同乗ガイドの配置
WeRide（ウィーライド）	車両提供、自動運転システム提供

使用車両

・本事業にあたり、BOLDLY株式会社が所有するWeRide社「Robobus」を使用した。

座席数	乗客11名
車両サイズ	5340×2090×2760mm
最高速度	手動：60km/h、自動：40km/h
自己位置推定機能	・SLAM ・RTK-GNSS ・IMU
センサー構成	LiDAR 5個 ・Primary LiDAR(×2) ・Blind-spot LiDAR(×3) Camera 13個 ・Long Range Camera(×1) ・Middle- Range Camera (×9) ・Fisheye Camera(×3)
航続距離(km)	200※天候含む走行環境によって変動



使用車両

走行環境条件（ODD）

・園内西ルート（約5.1km）における走行環境条件を、以下に定義した。

条件	内容
速度制限	最高速度20km/h ※車両最高速度40km/h
路面制限	セメント舗装、アスファルト舗装、土壌被覆など。障害物がないこと
交通規制・一時変更エリア	一時的な交通規制や変更区域は未対応
走行状態	徐行、加速、減速、定速、駐停車、後退、車線変更、追い越し、右左折、回避
認識可能な障害物	乗用車、トラック、バス、SUV、工事車両、清掃車、救急車、自転車、歩行者、動物、自転車利用者、ベビーカー、倒木など
交通状況	運行可能：空いている道路、通常交通量 運行不可：事故・工事など
降雨	24時間で降水量9.9mm未満
降雪	12時間で0.1-0.9mm、24時間で0.1-2.4mm
雷	走行禁止
湿度	湿度80%以下で走行可能
気温	0℃超～35℃以下で走行可能
冠水	水深15cm未満で走行可能
積雪	積雪1.0cm以下で走行可能
路面凍結	走行禁止

検証項目（KPI）

・本事業においては以下検証を実施した。

指標項目	目標値	備考
手動介入回数	1便あたり3回以下	ODD外や交通円滑化介入を除く。 AI学習でゼロ介入を目指す
自動運転割合	97%以上	他地域での実績：99%以上
運休率	5%以下	各種トラブルによる欠便を極力防止
安心感（アンケート）	80%以上	「安心して乗車できた」と回答
総合満足度	80%以上	利用者満足度の向上

2. 運行結果

運行結果

・本事業においては関係者試乗及び一般来園者を対象に実施し、多くの方にご利用いただきました。

項目	概要
日程	関係者試乗：2026年1月27日 一般乗車：2026年1月28日～3月31日
運行便数	366便
対象者	関係者試乗：愛知県知事報道関係者 一般乗車：来園者
乗車実績	3,102人
運行ダイヤ	平日：6便（9時～17時） 土日祝：12便（9時～16時）
運行区間	園内バス西ルート（約5.1km）



2026年1月27日 出発式写真

2. 運行結果

全走行結果

・本事業の走行結果は以下の通り

項目	期間	日数	走行便数	走行距離※	実施内容
走行 / 調律走行	2025年12月2日～ 2026年1月26日	27日	-	1,401km	・3Dマップ作成 ・高難度走行箇所の調整
関係者試乗	2026年1月27日	1日	2便	8km	・愛知県知事 ・報道関係者
一般乗車	2026年1月28日～ 3月31日	49日	364便	2,598km	・来園者の乗車
総計	-	77日	366便	4,007km	

※走行距離はオペレーターのトレーニング走行及び回送距離も含む。

3. ユーザーアンケート結果

前提

・アンケートは2026年1月28日～3月31日に実施し、266件の回答を得た。

回答者属性

年齢	総計
10代	19人
20代	24人
30代	56人
40代	75人
50代	35人
60代	44人
70代以上	13人
総計	266人

カテゴリー	総計
県内からの一般来園者	229人
県外からの一般来園者	24人
実証実験関係者・招待者	13人
総計	266人



車内QRコード

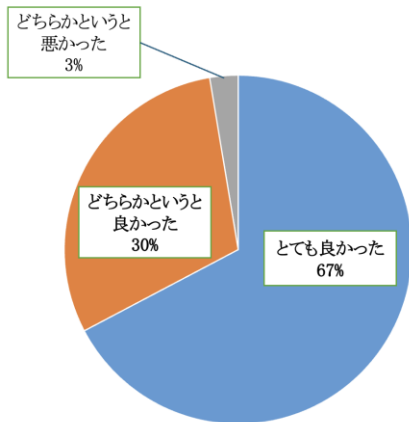


ステッカー配布

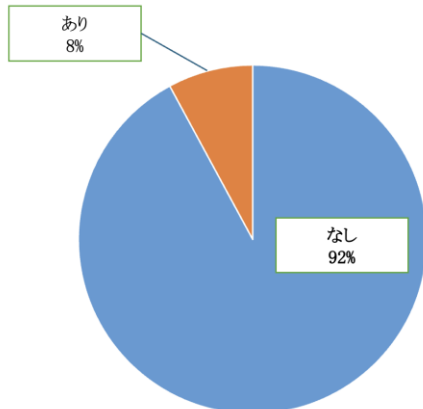
3. ユーザーアンケート結果

自動運転バスに関する利用者評価と受容性調査

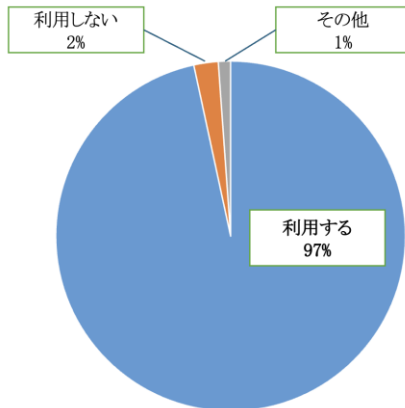
乗り心地



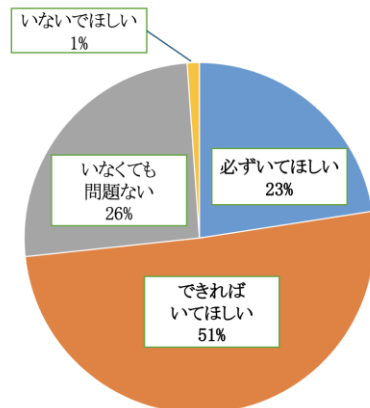
試乗中不安に感じたこと



自動運転に切り替わった場合



ガイド・添乗員の乗車



- 全体的に評価は高いが、不安解消と信頼性向上が今後の普及に重要。
- 乗り心地は概ね高評価だが、「悪い」も7件あり改善課題が残る。
- 試乗中の不安は割合は低いが21件あり、説明や体験設計に改善余地。
- 利用意向は高いが「利用しない」も6件あり、不信や抵抗感が存在。

期待・要望

「是非導入」「期待」「楽しい」「また乗りたい」などの明確な前向きコメントが非常に多く、改善要望とセットで書かれている場合も含めると、前向きな意見は全体の約7～8割程度と見られた。

以下に回答で見えてきた4つの主要な要望を記載。

<運行・利便性の向上>

ルート拡充や本数増、逆ルート導入などの要望が多く、移動手段として日常利用できる利便性向上が期待されている。

<車両・設備の改善>

座席数増加やバリアフリー対応、ベビーカー対応など、多様な利用者に配慮した車内設備の充実が求められている。

<安全性・信頼性の強化>

緊急対応や遠隔監視、悪天候時の運行など、安全面の明確化と安心して利用できる体制整備への期待が大きい。

<情報提供・体験価値の向上>

案内表示や音声、エンタメ要素の充実により、分かりやすさと楽しさを両立した乗車体験の向上が求められている。

走行に関するフィードバック

「乗り心地」や「試乗中不安に感じたこと」については、9割以上がポジティブな回答をしている一方で、49件の指摘も受けている。代表的な指摘は以下3つに分類される。

<緊急時対応への不安>

「緊急時の対応方法が分からない」「ブレーキは効くのか」など、非常時の挙動や操作優先順位が不明確で安心感に欠ける。

<自動走行の挙動の不自然さ>

「発進・加速」「ブレーキ」「カーブ」で違和感との声多数。自動走行がスムーズでなく、乗り心地や信頼性に影響。

<システム・安全性への懸念>

「サイバー攻撃が怖い」「障害物認知に不安」など、外部攻撃や認識精度への不安が心理的な抵抗感につながっている。

課題整理

<運行・供給力の不足>

ルートへの偏りや逆ルート未整備、本数の少なさ、定員不足に関する指摘が多く、需要に対して供給が追いついていない状況が見られる。特に土日や混雑時に「乗れない」「戻れない」といった不便が発生しており、日常的な移動手段として定着するには、運行頻度の増加や柔軟なルート設計、リアルタイムな混雑把握などの改善が求められる。

<車両・利用環境の未整備>

座席数の少なさや乗降のしづらさ、ベビーカー・車椅子対応の不足など、多様な利用者への配慮が不十分との声が目立つ。また、シートベルトの扱いにくさや車内音・案内の質など、細かな体験面の課題も指摘されている。誰もが快適に利用できる公共交通として定着するには、バリアフリー対応や設備改善、ユーザー視点での細部の見直しが必要である。

<安全性・運用体制への不安>

緊急時対応の不明確さや遠隔監視の必要性、悪天候時の運行可否など、安全面に関する懸念が一定数見られる。加えて、システムの説明不足やデータ利用への不透明感も信頼性の低下につながっている。技術的な安全性だけでなく、利用者が安心できる情報提供や運用ルールの明確化、有人サポート体制の整備が今後の普及に向けた重要な課題である。

4. 検証結果と次年度以降の展望

検証結果

すべての指標で目標値を達成し、運行性能・利用者評価ともに高い水準を実現した。

指標項目	目標値	検証結果	達成状況
手動介入回数	1便あたり3回以下	1便あたり1.3回	達成
自動運転割合	97%以上	97.4% ※1	達成
運休率	5%以下	3.9% ※2	達成
安心感（アンケート）	80%以上	90%以上	達成
総合満足度	80%以上	90%以上	達成

※1：大規模工事日を除く

※2：オペレーター体調不良に伴う運休は除く

4. 検証結果と次年度以降の展望

園内自動運転バス実現に向けた次年度以降の展望

検証結果に基づき、園内自動運転バス実現に向け以下を検討する。

指標項目	検討内容など
手動介入回数 自動運転割合	手動介入0、自動運転割合100%実現に向けた改善活動の推進 ・園内バス / 園内ルールとの共存 ・歩行者との距離確保のための走行設定見直し ・停車→走行時のシステムエラーの改修
運休率	運休率0に向けた保守・メンテナンス・運用体制の構築
安心感 総合満足度	アンケート結果に基づき、以下対策を検討 ・混雑状況の可視化や需要に応じたダイヤ最適化の検討 ・バリアフリー・ベビーカー対応など多様な利用者への配慮強化 ・緊急時対応フローの明確化および遠隔監視体制の強化 ・自動運転挙動や安全性に関する分かりやすい説明・情報提供の強化 ・安全説明・体験設計の改善による不安低減